

議員派遣結果報告書

1	名 称	関係人口関係者向け勉強会（セミナー） 関係人口とともにつくる『にぎやかな過疎』
2	場 所	大栄農村環境改善センター 2階 大会議室
3	期 間	令和7年12月16日（火） 1日間
4	所 感	<p>未来志向の講義に対しネガティブな所感になるが、『にぎやかな過疎』とは一見人口減を逆手に取ったインパクトのあるフレーズだが、その裏側にあるものは。ひとまずそれに成功した勝ち組はいいが、一方その影響で人口減に一層の拍車がかかった負け組はいかなる末期を迎えることになるのか。</p> <p>国の総人口の減少がはっきりと見通される中で、移住を最終目的とする関係人口の促進は人の奪い合いと思われ、工夫を重ねて地域の活性化に成功した勝ち組と、奪われ人口の減少を余儀なくされる負け組との格差が懸念される。転出先は都市部だけではない。地方では同じ県内で少しでも生活しやすい自治体への移住傾向もある。</p> <p>ふるさと納税も残念ながら現行制度では、まさに講師の小田切氏からあったように一過性の「Net shopping」。やがてブームが過ぎ去り、それに自主財源を依存し過ぎていた自治体に現れる副作用、納税額の減少が続き苦戦を強いられ続け瀕死の自治体などが結果として近未来に顕在化し、この制度の検証が迫られる時がやってくるのではないか。</p> <p>そもそも日本国土は都市部以外の大半は山地と田園畠作地帯。居住するのは例えるなら多くは元々農耕民族。第一次産業で古来よりその暮らしと生業を自分の生まれた地域及びその親族と地域住民とで支えあい、各々が先祖代々引き継がれてきた田畠を大切に守り、子孫へ継承することを生き甲斐に日々の生活を重ねさせる DNA に支配された民族が生業を継続させてきた歴史を否定できないのでは。</p> <p>古来より先祖伝来の土地を、末代まで引き継ぐため大切に守ってきた農耕民族が多いこの日本で、「移住定住」という選択肢が、どれほどのに受け入れられ、そして許されるのか。</p>

	<p>移住とは例えるなら遊牧民族の暮らし。ユーラシア大陸中央部の部族が、生活のため飼育している家畜の牧草を求めパオで生活しながら、適地を転々とするイメージと結びつけるのは極論か。</p> <p>移住定住促進のための関係人口の重要性に関する講義であったが、その目的がどこまで実現可能なのか。「にぎやかな過疎」という未来像に期待はしたいが、やがて負担となってくる高齢化と過疎化に伴い荒廃していく自分の足元の農地管理と切り離して考えられない課題と感じた。</p>
--	--

提出期限 令和8年1月9日（金）まで